

## 素手でつかむと危険です！注意してください！海の毛虫？

素手でしっかりつかむと、剛毛が刺さり、ひどく痛んで炎症を起こすことが知られているウミケムシが香川県海域で増えていますので、注意してください。

ウミケムシ（学名：Chloeia flava）とは、ゴカイ等の環形動物の仲間、分類上ウミケムシ科に属しています。ウミケムシは、体長2～13cmで、背中の中真中に暗い紫色の円紋が並ぶのが主な特徴です。分布は、本州中部以南の浅い海域から、かなりの深さの砂泥域に棲息し、インド洋から西太平洋に至るまで、広い範囲に分布しています（参考図書1、写真1）。

瀬戸内海での分布は、ほぼ全域で確認されていて、特に砂泥域では、ごく普通に観察される種として知られています（参考図書2）。

香川県の海域では、特に最近、小豆島のアナゴかごの中に大量に入るようになり、操業の妨げになっているとのこと。また、今回、直島地区のアマモ場（水深C.D.L.-2.0m）で、潜水調査中に初めて確認されました（写真2）。

ウミケムシは、夜間、灯に向かって泳ぐことが知られていて、夜釣りで釣れることもあるそうです。

体の周りがある剛毛は、ゴカイ等と違い中空になっていて、毒液がつまっています。この毒については、詳しいことは分かっていないようです。

漁業者だけでなく、一般の方もこれから暑くなり、海辺に行く機会が増えると思います。このような危険な生き物には注意して、怪我のないように夏の海を楽しんでください。



写真1 ウミケムシ  
海岸動物図鑑図版より



写真2 アマモ場で観察されたウミケムシ

香川県水産試験場 主任研究員 藤原宗弘

参考図書1 1992：原色検索 日本海岸動物図鑑[1]

参考図書2 1963：瀬戸内海の生物相(2)